
生命線はインターネットのみ (クリスマス終わりの限定作品)

普通のシー様 (冷凍済み)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

生命線はインターネットのみ（クリスマス終わりの限定作品）

【Nコード】

N1475J

【作者名】

普通のシー様（冷凍済み）

【あらすじ】

主人公は、クリスマス朝の翌朝に超常現象に遭遇する。頼みの綱はインターネットのみである。

この危機的状况から、果たして主人公は脱出できるであろうか？

プロローグ（前書き）

人生初の投稿である（笑）

プロローグ

目を覚ます。

時刻は AM 5:15

私はふと何げにカーテンを開け、外の景色を眺める。。

何時も見慣れた風景のはずであるが、その時は何か違った・・・

何も無かった。

全ては暗闇に包まれていた。

見えるのは、窓から見えるベランダと近くにある街頭のみであり、完全なる闇に包まれていた。

私は夢でも見ているのかと、一考したが、考えても答えが見つからないから外に出て確認することにした。

外は寒かった。当然だ。今は真冬でクリスマスの終わった26日である。

昨日、一緒にクリスマスのクタクタ鍋パーティをした仲間達も家に帰り就寝していることだろう。

私は・・・

今、目の前の現状を目の当たりにしている・・・

私は・・・

世界と分断された・・・

そして一人・・・

孤立した・・・

このような状況をどう解釈するべきなのか？

いずれにせよ、生命線は絶たれていた。

ライフラインと呼べるガス、電気、水道、は、機能しているが、食料が無かった。

外の世界に足を踏み入れて食料を調達することが不可能なのである。

私は、想像した。そして願った。

これが夢でありますようにと・・・

私は小説家だから、こんな馬鹿げた夢や妄想は良くする。

だから、夢から覚めれば、きっと元通りの日常が待っているはずである。

そう信じて眠りについた・・・

・
・

• • •

AM 9 : 0 0

夢では無かった。

外は依然、闇に支配されている。

私は、思考を巡らして何とか心の落ち着きを取り戻す為に、パソコン起動してインターネットへと繋げる。

私がブックマークに登録してるお悩み相談サイトOKWEBに、この疑問をぶつけてみた。

ブログ（後書き）

このOKWEBというサイトは実在します。

ヤフー以外のあらゆるサイトと提携していて、教えてGOOやら、教えてネット等、多数のプロバイダとデータベース共有をされていて、物凄いアクセス数がある。

その規模は、ちょうどヤフーの「知恵袋」と同じ、もしくは、それを超える回答率を誇る。

作者は、この小説の内容と問いを直接、書き込むことにしました。その答えによって、この先の物語にいくらか影響を与えたいと思う。

回答者一号

OKWEBから、まず、一人目の回答が来た。

回答者：ameroro

ガス、電気、水道が機能しているという事は、ライフラインが外と繋がっていることを表しています。

電話回線も通じているはずだから友達に電話してみたら？

確かに、その通りである。

私はとりあえず昨日晩にパーティをした仲間達に連絡をとりつけた。

「お〜〜!!どうした?」

説明すんのが面倒だから、OKWEBのサイトの質問を読んでくれる?

「え〜〜!! 何だよ! めんどいよ!!」

私は半ば強引に脅迫して、彼に見せさせた。
すると・・・

「面白いことしてるじゃん」

ふざけるな! こっちは、真剣なんだよ! いいから早く、助けに
来い!

という気持ちを抑えられなくて、またも怒鳴った。
彼も私の余りの激怒振りに異常を感じたのか、早速来てくれることになった。

30分後・・・

彼から一本の電話が入った。

「まいったな・・・お前の家、誰も居ないぞ。お前、どこで何しているの？」

彼の言い分は、直訳するところだ。

私は、神隠しにあったかのように、彼の前から姿を消し去っている。けれども彼とは玄関先で電話越しで会話をしている。両者は互いに見えない。

まるで、異世界に分離されたかのうな、矛盾とカオスが交錯した状態で私達は存在を認識しているということである。電話という手段で・・・

「ずしょーーーーー!!!!!!!!!!」

と、突然大きな地震が発生した。

気付くと、ライフラインが全て切断されていた。

電話もガスも水道も全てである。

唯一の切断を免れたのは、ノートパソコンであった。

理由は判らないが、インターネットに繋げることができた。
無線を使っているからだろうか・・・

バッテリーの残量は60分・・・

これで、どうやってこの事態を抜け出せば良いのだろうか???

回答者2号

回答者：matutakako

思うに、無線のインターネットが繋がるのは、周波数帯に原因が
りではないでしょうか？

携帯電話と無線LANは基本的に規格が違うし、自宅のアクセスポ
イントの電力が無くて消えていても、近隣の家など、にアクセスポ
イントがあるなら、繋がるはずですから。

なるほど、つまりは、その近隣の家が私の生命線になって居るとい
う訳であるな・・・

引越しとか、長期旅行とかで、電源切られたら困るな・・・

と、そんな無駄な可能性の未来を考える前に、現状をどうにかしな
いといけない。

とにかくパソコンを省電力モードに限りなく設定した上で、頻繁に
電源を切ることにした。

自分の体力と相談して、1時間おきにアクセスして状況を確認する
ことと刷る。

その間は、できるだけ寝て精神を落ち着かせることだけに注意する
ことにした。

だが・・・

無理であった。この状況で落ち着けという方無理である。
私は自称小説家である。自称プロである。
妄想するのがお仕事である以上、変なことを考えざる終えない。

まっくら闇で寂しく、モンモンと考えていたら、思い出した！

ロウソクである！

クリスマスケーキの余りに残された蝋燭を使えば、少なからず明かりに使える。

だが、今の所、小さな明かりを付ける理由がないが、とりあえず覚えておこう。

ライターもある！

今は冬で寒い。何か物を燃やせば暖を取ることができる。

幸いなことに、マンションの下にゴミ捨て置き場があって、新聞紙の山を発見した。

恐らく、資源ごみで回収されずに残ったのだろう。

できれば、生ゴミでも良いから、食料となる物が、あってほしかった・・・

トイレのタンクの水！

恐らく飲めるはずだ。

10リットルくらいはある。

これで少なくとも、2週間は持ちこたえられる筈である。

畑!!
マンションの下の直ぐ側にある。
すこしだけおすそわけしてもらおうかな・・・
と、考えたその時!!

泥棒!!

なぜ、考え付かなかったのだろうか・・・
私のマンションは、6件であり、その6件の家に押し入って、食べ物
を頂戴すれば良いのである。
どうせ、住民は存在しないのから、誰にも迷惑を掛けない・・・

そうと決まれば、早速、蝋燭に火を付けて、お隣さんの家にベランダ
から侵入した。
窓を壊し中に入り、いろいろガサ入れしている間に、懐中電灯を見つけた。
食料も難なく、2週間分は確保した。

私は・・・

何故か、この状況が楽しくなっていた。

退屈な日々を抜け出し、してはイケナイことをし、常人では味わえない特別なスリルを体験している。

いつしか、私は、そんな風に思うようになっていたのである。

だが危機が回避されたわけじゃない。

余命を1ヶ月と宣告されているような状態に変わらないのである。

現状を再度認識した私は、ブルーな気持ちでOKWEBへとアクセスした・・・

すると、私が今したような行為の提案が書き込まれていた・・・

回答者11号

私は律儀にも質問をくれた皆にお礼の返信をして状況を説明した。

すると、今度は、思っても見ない回答が入ってきた。

回答者：mennhera

思うに暗闇とはどういう状況なのですか？

もし、暗闇でも前に進めるといふなら、同じように民家があつて食料が調達できるかもしれませぬ。

もし、そうでなく、暗闇のその先にも進めないようなら・・・この主人公には諦めて余命を受け入れて貰うしかないですね。

その通りだった！

私は、暗闇の先を知らなかつた。

怖くて前に進もうとはしなかつたのだ。

OKWEBさん、回答してくれた皆、ありがとう！

生きる希望が湧いて来たよ！！

幸いノートは携帯可能だし、行けるところまで行くことに決めた。

リュックサックに生活用品を押し込み、私は迷う事無く意気揚々と

家を飛び出した！！

そして・・・

暗闇の中で・・・

方向感覚を失い・・・

迷子になってしまった!!!

完結！？

迷子になった原因はなんだろうか？

思い出してみると、平坦な道であったことを思い出す。

段差とかは無くて平らな道、何も抵抗も無く進む事が可能であり気付くと方向感覚を失っていたのだ。

私は大声で叫んだ。

「OKWEBのバカヤローーーーー！！！！」

その声は、山彦の様に私に目掛けて帰ってきた。

やまびこは、私に空しく響き渡る・・・

やまびこ・・・

私は、そう呟くとナイスアイデアを思い出した。

以前、テレビのアンビリバボーで放送していたが、盲目の人間が声を発し、その声如山彦として帰ってきた音（反響音）で空間を認知して自転車に乗るといふ所業をやっていた。

つまりは、山彦が帰って来る方向に進めば、何か物があるということである。

私は早速、山彦が返ってくる方向に進んだ。

そして・・・

元居たマンションに帰ってきた。

私は、それでも意気揚々としていたのかもしれない。
何も無い空間で一人寂しいのは流石にキツかったから、ココが天国
の様にも思えた。
自宅のソファーにふんぞり返りリラックスした状態でOKWEBに
アクセスした。

「YES」

???????

「イエスが教えてしんぜよう」

???????

「君は、無心論者だね。」

はい・・・

「神を否定するね？」

はい・・・

「でも、それで人を不幸にしているのは理解している？」

.....

「神を信仰する者は、得てして、精神の拠り所を神としてしているんだ。」

彼らは心を病んでる場合もあるけど、そうでない場合もある。

けれど、好きで神を信じようとしている訳じゃないんだ。

だから、心の底から自分が無心論者だとは思ってはイケナイのだよ。その気持ちがある限り、神を信じる者を不幸にする可能性があるのである。

何気ない「神は否い。信じない。」という言葉は、発言してはいけないのだよ.....

今回は、それを判らせる為に、君をこの孤独の世界に放り込んだ。

.....

^

~~~~~

~~~~~

気付くと私は、ベットの上に居た.....

全ては夢だったのかと自分に説いてみるが.....

目の前には、証拠物件であろう人から盗んだモノが存在していた。

私は自分を疑った。

目の前にある現実を受け入れられずにパニックになると同時に、助かったことへの喜びと感謝を感じ。神に懺悔した。

全ての現象を謝った。

全ての罪の行いを謝った。

そうして、リュックサックに入っていた盗んだモノについて謝ったとき……

「それは神様からのプレゼントだと思いなさい」

神が今、私の声に耳を貸した。

私は、この現象の真実を確かめたい好奇心に駆られ、あるうことが神に発言してしまった。

「できたら、食料盗んだついでに、金も盗んどけば良かったな！」

すると神様は私のギャグを大変気に入り、私の付き人になりましたとき……めでたしめでたし……

〈追記〉 別の落ちパターン

「できれば、食料盗んだついでに、金も盗んどけば良かったな!!」
神をそれを聞くと顔を強張らせ大きく手を振りかぶって・・・キ
メポーズみたいなダンスを始めて呪文を唱えた。

「がんばれーーーーー!!!!そして、るばんがーを悟ってこい!!」
神がその呪文を唱えた瞬間、大きな地震と共に世界がXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXになりましたとき・・・めでたしめでたし。

おわり???

完結！？（後書き）

この小説のアイデアをくれたのはサンタです。

どうやらサンタは忙しくて、クリスマスが終わった後に遅れて僕の所へ来たようだ。

サンタクローズ

サンタ苦勞する

と、いうことだろうな・・・

けれど僕にとっては今までで最高のクリスマスプレゼントでしたw
サンタさん、ありがと〜（^o^）ノ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1475j/>

生命線はインターネットのみ（クリスマス終わりの限定作品）

2011年1月20日18時44分発行